

製作スタッフ



海苔監修・指導 川崎 賢朗



海苔監修・指導 佐々木 成人



VFX 浜井 貴子



録音 清水 雄一郎



記録 穂盛 文子

編集	村上 雅樹
音響効果	松浦 大樹
録音助手	南川 淳
	大平 篤希
メイク	小林 真由
メイク助手	宮沢 風香
小道具	向後 彩華
衣装助手	熊田 侑里子

監督助手	芳賀 直之
	藤原 貴翔
撮影助手	田村 ゆう子
	御園 涼平
	金澤 颯
美術助手	鈴木 貴士
ピアノ指導	原口 沙矢架
	青木 雄介
製作主任	福田 裕矢
製作進行	安藤 茉里奈



新聞掲載から

2024年(令和6年)11月19日(火) 第388号(2024.11.19)

# 「ら・かんぱねら」完成

## 主人公モデルの徳永さん、試写会で感謝



「俺の映画じゃなかなか、みんなで作り上げた」

ピアノの難曲「ラ・カンパネラ」を独学で習得した佐賀市のノリ漁師徳永義昭さん(64)をモデルにした映画「ら・かんぱねら」が完成した。有明海のノリ漁の情景をええながら、家族のきずなを描くホームドラマだ。

映画のモデルは、佐賀市ノリ漁師、徳永義昭さんに向かい、難曲に挑む。徳永さんは、ピアノの故フジコ・ヘミングさんの演奏に心を打たれ、52歳だった1975年から独学で練習し、難曲を克服しようとした。

主演は伊原剛志さん。時折つづかりながらも夫を見守る妻の役を南果歩さんが演じた。周囲も暖かい初心が、楽観も読めた。

17日、佐賀市文化会館で試写会があり、出演者や徳永さん夫婦が、舞台あいさつや観客の取材、映画への思いなどを語った。

映中、流れる主人公の演奏は、伊原さん自身によるもの。徳永さんと同様、初心者だったという。

ロケは今年3〜4月に、全編佐賀で行われ、佐賀の名所を登場する。得付けや取巻といったノリ漁の様子やノリで巻いたおにぎりにともなう所々で映し出される。

鈴木一美監督は徳永さんを通して、ノリがどうやってできたかを学んだという。農業のように「ノリ畑」で栽培することから、加工する町工場まで幅広いノリの仕事。

伊原さんは撮影に入る前、一日も休まず、時には折りたたみの電子ピアノを持ち運んで練習し、5カ月前かけて習得したという。

伊原さんは「より徳永さんがすごい」と思った。役に近づけたんじゃないかなと思った」と話した。クライマックスでは「ラ・カンパネラ」を一曲通して演奏する。

いざという時は、徳永さんが支援に感謝し、言葉が詰まらせる場面もあった。

徳永さんは試写会後、「俺の映画じゃなかなか、みんなで作った映画だ」と思い、感謝以外の言葉がないと思った」と語った。

妻の千恵子さんは「夢を見ていた感じが、一生分のラッキーを今日もらったような気がして、幸せで」と話していた。

来年1月31日に佐賀市のイオンシネマ佐賀大和で先行ロケショーが始まる。2月9日には福岡、熊本で、3月には広島、5月には東京の映画館で上映が始まることと決まっている。(岡田祥子)

ピアノに向かう、伊原さん。主演の主人公のモデル、徳永さん(左から)と妻の千恵子さん、南果歩さん=17日、佐賀市大和1丁目

ピアノに向かう、伊原さん。主演の主人公のモデル、徳永さん(左から)と妻の千恵子さん、南果歩さん=17日、佐賀市大和1丁目

ピアノに向かう、伊原さん。主演の主人公のモデル、徳永さん(左から)と妻の千恵子さん、南果歩さん=17日、佐賀市大和1丁目

今日の天気

18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)	24(日)
晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
最高	17	19	21	22	23	24
最低	14	16	18	18	17	17

前日比

最高	17.6
最低	14.3

不動産のことなら (金沢)地産

佐賀市駅前本町3番9号 TEL

www.chisan-



映画「ら・かんぱねら」の舞台あいさつで、左4人目から主演の伊原剛志さん、特別ゲストの徳永義昭さんと妻の千恵子さん、南果歩さん、出演者、佐賀市文化会館(撮影:川南慎司)

# 「ら・かんぱねら」完成試写会

ピアノの難曲を独学で習得した佐賀市川副町のノリ漁師徳永義昭さん(64)をモデルにした映画「ら・かんぱねら」の完成試写会が17日、佐賀市で開かれた。資金調達や撮影スタッフへの炊き出しなども市民が映画製作を支えたことでも話題を呼んだ。主演の伊原剛志さんら俳優陣に加え、徳永さんと妻の千恵子さんが舞台に立つと、支援者約1,200人から大きな拍手が起った。18面に関連記事

映画は、52歳でピアノを始めた徳永さんが、リストの難曲「ラ・カンパネラ」を独学で取得した実話に基づく。人生を懸けた中年男の挑戦を支えた家族愛や、仲間との絆を描いた。撮影は佐賀市を中心に、ノリ漁の厳しい現場が細やかに描写されている。

地元では映画を支援する会が立ち上がり、広報活動や資金調達、ロケ場所の紹介、炊き出しなどで撮影スタッフを支えた。登壇した

## 主演の伊原さん「佐賀から盛り上げて」

徳永さんは「誰一人が欠けてもここの映画は完成していない。『支援する会』の皆さんの支えに心からお礼を述べたい」と涙を浮かべながら感謝した。

鈴木一美監督は「皆さんに育てていただきながら、寿命の長い映画にしたい。いずれば全国の学校での上映も目指したい」と意気込みを語った。

上映後の舞台あいさつで、主演の伊原さんは「特別ゲストに徳永さん、ピアノの練習シーンの実話などを紹介し、僕のできる100%の力を出した。まずは佐賀から盛り上げていきたい」と呼びかけた。

映画は、来年1月31日から佐賀市のイオンシネマ佐賀大和で先行上映される。2月下旬から福岡県、伊勢市、伊豆市、熊本市、伊勢市、伊豆市、熊本市のイオンシネマ4カ所と熊本県のイオンシネマ熊本を経て、全国に展開し、5月から東京でも上映する。(坂本有佐)

22 事件・社会 2024年(令和6年)4月13日(土曜日) 聞

# 「らん・かんぱねら」撮影終了 上映、今秋から

## ロケ1カ月 よか映画できたばい

ラン・カンパネラで主演の伊原志士さん(左)や鈴木 美穂(中央)ら、佐賀市川副町

佐賀を舞台とする映画「らん・かんぱねら」の撮影が12日、終了した。佐賀市川副町のノリ小屋でランクアップし、主演の伊原剛志さんと同市出身の俳優の川崎瑠奈さんがスタップから拍手を浴びながら花束を受け取った。

ランクアップの前には伊原さんがスタップらにオリジナルの手拭いをプレゼントしたという。

撮影を終えて伊原さんは「演奏はやればやるほど難しかった。多くの方々に助けられて役ができた」と振り返りつつ、「佐賀最高、川副最高」と締めくくった。鈴木 美穂監督は「地域の人と共に映画作りができて感謝している。親子3代が一緒に見られるような作品にしたい」と話した。

同映画は3月17日に撮影が始まり、佐賀県内各地で約1カ月間にわたって行われた。ノリ漁の支柱立てなどのシーンは、養殖ノリの漁期に合わせて昨年9月末から先行して有明海で撮影してきた。参加したエキストラは約300人に上り、支援する会などのボランティアスタップは約100人が関わった。

最終日の前日の11日から伊原さんのヒロインの演奏シーンを中心に撮影が行われた。ク

(反木 真由子)

23) 地域 2025年(令和7年)1月10日 金曜日 天火 田

来月8、9日 十文字映画祭

# 開幕は「ら・かんぱねら」

## 鈴木監督 天仙出喜 作品

第32回あきた十文字映画祭が

2月8、9日の両日、横手市十文字町の三重地区交流センター（旧十文字第一小学校）で開かれる。きょう10日からチケット販売を始める。地元映画愛好家でする実行委員会・小川孝行代表の主催。

2日間7作品を映す。2月8日は天仙出喜の鈴木 美監督が手がけた「ら・かんぱねら」が映画界初顔を飾る。続く「満

### きょうからチケット販売

来賓によろこぶ

2/8-9  
FESTIVAL  
HAPPY!  
横手市三重地区交流センター

第32回あきた十文字映画祭のポスター

## 日程

上映作品は以下の通り  
開場は8日午前9時半、9日午前10時  
【8日】午前10時5分  
「ら・かんぱねら」午後  
11時10分・満天の星▽午  
後3時半▽やまぶき▽午

天の星」は今津牧草中から起きた字輩仲間対峙の暴走事件を生ける孫作の傑作大団さん伝承のトキメンタリ。岡山県と農産を営みながら映画製作を目指す山崎龍一監督の「やまぶき」、アイヌ民族と和人の交流を描いた時代劇「ジレン」も上映される。

9日は東日本大震災と原発事故の余波を受ける福島県の家族物語「北平」、雄略の新鋭キム・ユンス監督の長編デビュー作である「ユートピア」小説を書けなくなった作家が本を巡る旅に一本を巻く。3本が上映される。

問い合わせは実行事務局 080-8-822-2601

チケットは上映会場にて販売  
券 前売券100円 当日券1300円 横手市道の駅アキタ文芸書庫 横手市のブックスタ 大曲町のブックスタ 大曲町にある県内各地のアレガイト、チケットで取り扱。

開催にあたっては、金銭的支援は清純が予想されるため、実行委は口頭で行う十文字地域開発のシタルバスの利用を推奨している。

三重大地区交流センターでの開催は当初予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

西口「それの作品も上映されて監製や出演によるイベント」が開催される。

三重大地区交流センターでの開催は当初予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

横手支社

大曲支局

角

010-766-0000

010-766-0000

角

[illegible]



# 伊原 剛志 いはら つよし



## (プロフィール)

1963年福岡県生まれ。大阪府出身。ジャパンアクションクラブ(現JAE)出身

1983年舞台「真夜中のパーティー」で俳優デビュー

1996年NHK連続テレビ小説「ふたりっ子」で全国的に注目され、映画、ドラマ、舞台と幅広く活躍。日本国内の作品のみならず、クリント・イーストウッド監督作「硫黄島からの手紙」(’06)、ブラジル映画「汚れた心」(’12)など海外作品にも多数出演。その他の出演作品に「十三人の刺客」(’10／監督:三池崇史)、「超高速！参勤交代」シリーズ(’14, ’16／監督:本木克英)、フランス映画「不思議の国のシドニ」(’25)など。

## 映画「ら・かんぱねら」への想い ～完成披露試写会の舞台挨拶より～

これまで、ピアノに触ったり弾いたことはなかった。台本を読んだ時、徳永義昭さんの事を知り自分がどこまで出来るか、主役が決まってから一日も欠かさず6時間以上の挑戦をしました。

しかし、途中で壁にぶつかった時、7年も続けた徳永さんは凄いなと思いました。僕にとって「ら・カンパネラ」は大いなる壁で、登れるかどうか不安がありつつも楽しみながら挑戦しました。ラストシーンは、持てる力を100パーセント以上発揮できたと思います。

また、海苔漁師を主人公にした映画は、初めてなので戸惑いました。ピアノは勿論の事、海苔作業や佐賀弁のマスターなどありましたが「人間って目標を持つ事は大事、夢があれば叶う」との思いがありました。

佐賀の印象については、来る前より今は100倍ほど好きになりました。本当に温かくて熱い人たちと美味しい佐賀のりや米など最高の出会いでした。佐賀から盛り上げ全国へ発信して行きましょう。佐賀最高です！



# 南 果歩 みなみ かほ



## （プロフィール）

女優。1984年、短大在学中に映画「伽耶子のために」のヒロインでデビュー。テレビや映画、舞台で幅広く活躍。2015年には映画「マスタレス」で全米デビューも果たす。2022年AppleTV+「PACHINKO season1」では、メインキャストとして出演。「第38回インディペンデント・スピリット賞」にてクリティクスチョイスアワードを受賞。近著にエッセイ「乙女オバさん」(小学館)、絵本「一生ぶんのだっこ」(講談社)。映画「君の忘れ方」「Rule of living」台湾映画「腎上腺」などに出演。被災地を中心に読み聞かせボランティアも行っている。

## 映画「ら・かんぱねら」への想い ～完成披露試写会の舞台挨拶より～

徳永義昭さんと千恵子さん夫婦がモデルとして、人生を歩んでこられた事があったからこそ、この映画が誕生したと思います。どんな職業の人でも自分がやりたいと「行動を起こし、実現するまで」コツコツと積み重ねて行くことの素晴らしさが、この映画に描かれています。大人の人たちにも観て頂きたいし、大人になる事に夢を持たない子供たちにも是非、観て貰って、大人ってこんなに楽しい人生を送っているのを感じてほしいです。

佐賀に来てみると、気候も良いし、奥ゆかしい人情と温かさに触れ合うことができました。また、米も魚も肉も野菜も全て美味しく、こんなに魅力が詰まっているのに、みんなが佐賀の魅力に気付いていないと思います。映画と共に佐賀の魅力を知って頂きたいです。

これは、「メイドイン佐賀」の映画です。小さな佐賀県の小さなところの物語ですが、大きく広がる要素を持った映画です。期待しています。



# 主なキャストの皆さん



## 不破 万作 ふわ まんさく

1946年大連生まれ、千葉県育ち。  
唐十郎主宰の劇団状況劇場を83年に退団  
伊丹十三監督作品「マルサの女2」(’88)、「あげまん」(’90)、「ミンボーの女」(’92)などで注目を集める。多くの名監督に愛され「新宿泥棒日記」(’69/大島渚監督)、「赤い橋の下のぬるい水」(’01/今村昌平監督)、「スパイ・ゾルゲ」(’03/篠田正浩監督)、「アキレスと亀」(’08/北野武監督)など多くの作品に出演。



## 緒形 敦 おがた あつし

1996年6月20日神奈川県生まれ。  
父は緒形直人・祖父は緒形拳の俳優一家  
2017年TBS日曜劇場「陸王」で俳優デビュー。主な出演作は、ドラマ「MAGI-天正遣欧少年使節-」、「いだてん」「相棒19」「大豆田とわ子と三人の元夫」、映画「LOVE LIFE」「レジェンド&バタフライ」、舞台「カノン」踊り部田中泯「外は、良寛。」「わが町」など。最新作はドラマ「推しの子」。



## 大空 真弓 おおぞら まゆみ

東京生まれ。  
母と共に歌舞伎を観に行った帰りに歌舞伎座の前で、スカウトされ1958年新東宝入社。映画「女王蜂」でデビュー。主な作品は、「愛と死をみつめて」(’64)、「白と黒」(’63)、風林火山(’69)、華麗なる一族(’74)、テレビドラマや舞台に多数出演。1990年には「人生は、ガタコト列車に乗って…」で15回菊田一夫演劇賞を受賞。



## 田中 がん たなか がん

1954年12月15日長崎生まれ。  
劇団七曜日～劇団ふるさときやらばんを経て、現在chohai所属。  
長崎発地域ドラマ「かんざらしに恋して」、ドラマ「第9マキナ!!」、映画「こん、こん、」、舞台「七曜日」「鬼ヶ島」「サラリーマンの金メダル」「男のロマン」「女のロマン」その他の作品に出演。





## どぶろっく

2004年9月コンビ結成。保育園から大学まですべて一緒  
佐賀県基山町出身「基山ふるさと大使」。  
つねに「愛」をテーマに歌い続ける歌ネタ芸人。2013年  
「もしかしてだけど」でCDメジャーデビュー。お笑いライブ  
出演や音楽フェス出演などの活動のほか、サガテレビにて  
「どぶろっくの一物」レギュラー出演中。  
「キングオブコント2019」優勝。



## 枝元 萌 えだもともえ

滋賀県出身。藤健一事務所俳優教室修了後、ユニット  
「ハイリンド」を結成。  
2022年に第57回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。2023年  
に第73回芸術選奨文部科学大臣演劇部門新人賞受賞。  
ドラマ「わろてんか」(NHK)、「鵜頭川村事件」  
(WOWWOW)、映画「こんにちは、母さん」(山田洋次監  
督)ほかに出演。近年の主な舞台「セツアンの善人」(白  
井晃・演出)など。



## 鹿毛 喜季 かげ よしき

1998年生まれ、福岡県出身趣味はお菓子づくり。  
博多祇園山笠にも出ている博多っ子。小学1年生より舞  
台に立ち、映画「信さん～炭坑のセレナーデ～」(’10)／  
平山秀幸監督)にNHK 福岡 地域ドラマ「スイーツ」、FBS  
開局50周年スペシャルドラマ「天国からのラブソング」に  
出演。2018年には「野球部員、演劇の舞台に立つ」に出  
演、その他CM、ドラマ、映画、舞台などで活躍中！



## 川崎 瑠奈 かわさき るな

1998年生まれ、佐賀県佐賀市川副町出身。  
2022MissJapan 佐賀グランプリ  
8歳からティーンズミュージカルSAGAに所属し初舞台を  
踏む。佐賀東高校演劇部卒業後、劇団青年座養成所へ  
入団。その後、東京で舞台女優として活動しており、映  
画、CM、ドラマ等活動の幅を広げている。



# 九州キャストの主な皆さん



今野工務店社長、今野正一役 万 丈

剣道場主、蜷川正彦役 上瀧 雅大

南川副支所運営委員長、森山昇役 岩坪 光輝

漁協青年部部長、森山亮一役 松下 莉久

ラーメン店「夫婦軒」大将、浜井大介役 岩本 将治

ラーメン店「夫婦軒」女将、浜井遼子役 小貫 薫

徳田水産工場長、香田仁役 楽満 信幸

ピアノ調理師、江里口順子役 さざわ りか

自治会会長、近藤寿役 橋本 和雄

近所のおばちゃん、吉岡信子役 坂本 幸代

近所のおばちゃん、伊東富貴子役 本村 久美子

楽器店店長役 松尾 秀昭

パチンコの女性客 吉村 志保

高校生時代の時生役 木寺 玲音

高校生時代の奈々子役 舟越 幸音

ピアノの女子生徒役 北村 桃々

ピアノの女子生徒役 真子 夏美

ピアノの生徒、太田仙吉役 坪倉 謙之

ピアノの男子生徒役 片渕 奏汰

チェロケースの女子大生役 田中 咲衣花

ビオラケースの女子大生役 田中 由衣夏

古湯温泉山口屋支配人役 栗原 高広





# 口分地 Map





# 閉店した店が支援する会の拠点に

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

副デスク 松本 真由美

令和5年の初夏の事です。映画の製作を支援する会の手伝いをしないと声を掛けられました。その映画は、私の高校時代の同級生のお兄さんがモデルとなっていました。好奇心旺盛な私は、やってみたいとの衝動にかられワクワクしていました。まだ、支援する会は発足していないし、事務所ありませんでした。

そんな時です。モデルの徳永義昭さんの妹で同級生から、私の実家を事務所として貸してほしいとの打診がありました。かつて徳永さんも学んだ佐賀東高校の目の前の飲食店だった場所でした。卒業生なら誰もが知る店でしたが閉店して年数が経ち、内部はボロボロで事務所として使うには、かなりの修復をしないと使えない状態でした。

監督やプロデューサーに判断してもらうことにしましたが、結果はNOでした。しかし、支援する会BOSSの川崎賢朗さんや川原常宏事務長などメンバーみんなが、自分たちの手で改装しようと決断され、活動の拠点として事務所にする事になりました。

改装作業は大変でした。でも、支援する会のメンバーや製作スタッフも手伝い事務所らしくなり、ススだらけの顔から微笑みがこぼれていました。

事務所が動きだすと、かつて店の常連の同級生たちが次々に訪れ、思い出話に花が咲きました。約40年ほど続いた店が閉店して寂しくなった場所が、再び活気付いた事を両親も喜んでくれると思います。





# フードコーディネーターで映画の仲間入り

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

副デスク兼フードコーディネーター 川原 麻子

私は、支援する会での大きな仕事のひとつとして、フードコーディネーターを任されました。映画「ら・かんぱねら」でのフードコーディネーターは、海苔師さんの日常の食卓を再現して、さりげなく映画を裏側から支える役目です。

支援する会の藤田あずささん、馬場亜希子さん、納富直美さんと一緒に協力し合って何とか大役をやり遂げることが出来ました。映画の食卓のシーンは、朝食には、お味噌汁・玉子焼き・アジの開きなど、昼食では、海苔を巻いた爆弾おにぎり弁当を作りました。

これが、映画の食卓シーンとして撮影されますが3人とも不安でたまりません。監督に試作を確認して頂き、一回でOKをもらい不安な気持ちも少し晴れたところで本番に臨みました。

映画撮影は、助監督たちがシーンの流れを確認する段取りから始まり、役者が入って何回かテストを重ね本番になります。私たちは、テストで減った料理を元のように整え、またテストと繰り返され、セットの中を出たり入ったりで大忙しです。さあ次は本番です。3人に緊張が走ります。独特な空気に包まれます。その時、助監督のシーン〇〇番スタートという声が現場に響き、撮影が始まります。息を殺して見守る中”カット”の声の後にハイOK～監督の声を聴いてホッとしたのを今でも覚えています。

視聴した映画の中に、私たちのあの日の出来事が鮮明に映し出され、目頭が熱くなりました。

このような経験は、中々出来る事ではありません。この機会を与えて頂いた映画スタッフに感謝しております。





# 支援する会での体験は、人生の宝物

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

女性部会長 山西 恵美子



振り返って見ますと、令和5年9月に支援する会のBOSS・川崎賢朗さんとデスク・鐘ヶ江留美子さんに声を掛けられ支援する会に参加する事になりました。私は会の為なら、出来る事は何でもしたいとの思いがありました。

実行委員会では、女性部会長にと皆さんから声が掛かり、頑張ろうとしていましたが、実際には、仕事の関係で会社を中々抜けられず、そのため役に立たず迷惑を掛けてしまいました。ロケ中の4月1日の事です。この日は休みだから頑張れると思っていた矢先、膝を痛め、炊き出しの手伝いではカレーの具材やサラダの野菜切りも横目で見ながら、何も出来ない自分が悲しく思っていました。そんな時でも、支援する会の皆さんの温かい対応と眼差しに強い勇気を頂きました。

またBOSSに、小豆島出身の主人まで支援する会に誘って頂き主人と2人で参加ができ、とても出席しやすくなりました。支援する会は、とても素晴らしい仲間たちです。その仲間と一緒に映画づくりに参加できた事や監督をはじめ多くのスタッフと知り合えた事は、私の人生の宝物だと思っています。感謝しかありません。ありがとうございました。





## 監督との出会いは、八女から

映画「ら・かんぱねら」を支援する会  
車両部(ドライバー) 今村 久幸

鈴木監督と最初の出会いは、前作「野球部員演劇の舞台に立つ」の撮影が八女市で行われた8年前でした。その後も親交を続け、4年前監督から次は佐賀で映画を作ると原稿を見せて頂きました。監督の思いが詰まったストーリーで、原作について感想を聞かれたり、佐賀弁についてどう思うかなど話しました。

その後、主演は〇〇、奥さんは△△と監督と夢を語りながら、映画の内容を膨らませていき、監督も本気モードになり、何回も台本の書き直しをやっていました。

ロケが始まる3月から、オーディションに応募し参加が決まりました。また、支援する会の活動では、撮影資材を運ぶトラックの運転手をやったり、エキストラ出演と、今まで経験した事のない貴重な体験をさせて頂きました。

映画を鑑賞した時です。台本上で想像していた以上に映像が綺麗で、家族愛(夫婦愛)・仕事仲間との団結・環境問題も提案されており、「素晴らしい映画が生まれた！」と感動を覚えました。

エンドロールに自分の名前を見つけた時は、感極まり改めて貴重な体験をさせて頂いた事に感謝しかないと思いました。

支援する会の皆様、楽しい時間を共有させて頂きありがとうございました。

最後に映画「ら・かんぱねら」の全国で大ヒットを祈念致します。





## 監督と出会い、姪と一緒に映画出演

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 舟越 朝菜

私が鈴木一美監督と出会ったのは、監督がプロデューサーとして製作された福岡県八女市での映画「野球部員、演劇の舞台に立つ」でした。

今度は、佐賀県で監督として映画を撮ると聞き、応援を兼ねてロケ地見学に行くつもりだけでした。気が付いて見ると、映画に出演するオーディションがあると聞いては受け、人手が足りないからとボランティアをやり、炊き出し隊で料理もつくりました。その他、美術のセットづくりを手伝ったり、エキストラで出演するなど貴重な経験を沢山させて頂きました。

姪たちも映画に関心があり、上の姪はキャストに、下の姪はエキストラでオーディションに挑戦し、2人とも合格し、それぞれ撮影に参加して素敵な経験が出来ました。ありがとうございます。

支援する会に参加するまでは「知り合いの監督の映画・・・」だったのがプラスされ「私も姪も参加した映画・・・」となりました。ポスター掲示やインターネット配信などで沢山の知人や親戚それに会社の同僚などへ宣伝し、時には通りすがりのお店などに応援をお願いしています。

今では、映画どう？ いつから？ こっちでもやるの？ 観るからね！と暖かい言葉に感謝の日々が続いています。後は、仲間のみんなから感想を聞くのが楽しみです。





# 笑いが絶えないスタッフルーム

映画「ら・かんぱねら」を支援する会  
スタッフルームチーム 石井 恵美

一番最初にスタッフルームに行った時は、本当に気  
楽なミーハーな気持ちからでした。

しかし、皆さんと関わって行くに連れ情熱が伝わり、こ  
の映画を色んな人に見て貰いたいと言う気持ちになっ  
て行きました。そして、自分はスタッフとして何を手伝い  
できるか、何が出来るか分からないまま、とにかくス  
タッフルームへ足を運びました。作業としては、パンフ  
レットの折り込みや電話対応が主な作業でした。

その中でも、オーディションの申し込みの時は、余り  
にも多い応募があり、対応するスタッフも初めての経験  
なので、てんてこ舞い状態！毎日遅くまで作業を行い、  
ぎりぎりで乗り切った思い出があります。

でも、そこでみんなとの仲がグッと縮まったと思います。その後も、色んな事がありました  
が、いつもスタッフルームは笑いが絶えなかったです。

一番印象に残ったのは、完成披露試写会が佐賀市の文化会館であった時です。大ベテ  
ランでアドバイザーの指導のもと、試写会の進行役を担当させて頂いたことです。アドバイ  
ザーは、地元のテレビ局で長年経験されていて、まずは落ち着くこと慌てると失敗するとアド  
バイスがありました。その通りで、落ち着くと全てが見えて、初めての体験が出来ました。

「楽しい」をモットーにした支援する会の皆さんだったので、本当に楽しいボランティア活動  
が出来ました。ありがとうございました。最後に、私が作ったケーキをいつも美味しく食べて  
くれて嬉しかったです。





## 徳永さんの熱意に感動、支援する会へ

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 川副 由紀子

映画「ら・かんぱねら」に関わったきっかけは、数年前にモデルの徳永義昭さんの奥様・千恵子さんと知り合い、ご主人のピアノに対する熱意と努力の凄さを知って感動したからです。何かの形で協力できないかと思っていたので少しだけですが手伝いができ、そして支援する会の皆さんと活動する事で色々と勉強になり、良い刺激を受けました。

最初は、エキストラでダムの岸辺に植林をするシーンに参加しました。初めての伊原剛志さんと緒形敦さんをお隣にしての出演は、ドキドキワクワクで貴重な体験でした。反面、皆さんが朝早くから準備に取り掛かり、見事な大漁旗が並ぶロケ地づくりに参加できなかった事は申し訳なく思っています。

印象に残っているシーンは、白石町の剣道場での撮影で、伊原さんの真剣な表情で「もう迷っとる暇はなかよな」というセリフに私自身の心も刺される想いでした。協賛金のおかげでは、久しぶりにお会いした人や思わぬ人からの協力だったり、新たなご縁もあって本当に感謝感謝でした。

また炊き出しでは、最後の炊き出しの日に手伝いが出来ました。その日は品数も多く、色々と差し入れもたくさんあり、イベント会場の様のように賑わっていました。メニューが焼き鳥丼、スープ、サラダ、煮物等など、あんな大量に鶏肉を見たのは初めてでした。プロフェッショナルのようなママさんが数名おられ、手際の良さに感心しました。撮影が長引き、片付けを終えたのは夜遅い時間でした。疲れもあるのに皆さん笑顔でした。素晴らしいチームワークです。撮影が終了して徳田邸の家具、食器、小物などの片付けを手伝いました。お茶碗、コップ、ベット、タンスなどほとんどが東京から運ばれてきたとは驚きでした。そのどれもが映画では、大きな役割を果たしてセリフのない俳優さん達でしたね。また、次の現場で活躍する事でしょう。

支援する会の皆さんは、パワーいっぱい！個性いっぱい！愛情いっぱい！の人たちでした。皆さんとの共通な思いは、映画館を観客で一杯に出来たら夢が叶い最高です。





# 夢があれば～いつか叶う

映画「ら・かんぱねら」を支援する会  
副事務長兼クラウドファンディング担当 山口 真知



映画鑑賞にハマり好きなことを仕事にしたいと思い、映画業界への就職を志した大学時代。あれから10年、思いもよらない方向に人生は進み、縁もゆかりもなかった佐賀の地で、映画の話が舞い込んだ。

夢を叶えた海苔漁師をモデルにした映画で、映画づくりに携わるすべての人々の夢が詰まった作品となり、地元の支援者が紡いだノンフィクションに私の心は動かされた。

よそ者に無償の愛をささげる佐賀の人々。この県民性に惹かれて私は、ここ佐賀に移住を決断したことを思い出し、その決断を密かに肯定することができた。

撮影現場を通じてその魅力が出演者や製作者に伝わったことは間違いない。スクリーンを通して、この魅力が全国に広がることを切に願う。

本編で描かれた自然と向き合う漁師の尊さ、これを支える人間の愛。普遍的で、観る者、観る時代を選ばない。何年経とうが色褪せないこの作品とともに、佐賀の豊かな人の心を後世に伝えていくことを誓う。





## 映画での出会いと始まり

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

撮影サポート 藤田 泰則

私は2023年10月、映画「ら・かんぱねら」を支援する会の発会式が佐賀市内のホテルで開かれ足を運んだ。

会場へ入ると各メディアの記者の中に、この映画のモデルとなった徳永義昭君と映画を支援する会のBOSS 川崎賢朗君がいた。

彼らとは同じ高校の同級生だったが距離を置いていた。「この人が今話題の人か」と…そして、ここで初めて聴いた徳永君の演奏…

その後クランクインとなり、友人が作ってくれた団扇を持参してロケ現場へ！その時、味わったロケ弁は今でも忘れられない。



私は、日頃より映画が好きで多い時には月2本は観ているが、その殆どが洋画で邦画はあまり興味がなかった。そして暫くして試写会の日がやって来た。初めて観た映画「ら・かんぱねら」は、あまりの素晴らしさに言葉を失った。

この映画は、1人の男のサクセスストーリーに止まる事なく、ピアノという音楽を通して苦悩と葛藤が交差しながら、家族愛・友人愛・隣人愛が描かれている。そう、映画と言えばパソコンや携帯で観る昨今ではあるが、やはり映画は劇場へ足を運び大画面のスクリーンで観るのがベストである。そうすれば、感動や喜びが倍增するに違いないと思います。



## 思い出の一枚



深夜の食事準備



炊き出し隊の休息



クランクアップ



佐賀城公園で記念写真



浪漫座で記念写真



SAGAアリーナでのPR活動



## 愛車が衣装運搬車として活躍

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

広報部(SNS担当)兼ドライバー 藤田 佳典

映画「ら・かんぱねら」の撮影に向けて、先乗りしてきた撮影部スタッフが県内のあちこちを駆け回って、撮影地や機材、小道具などを選定している中で、私に白羽の矢が立ったのは「衣装運搬用に自家用車を提供して貰えないか？」との要請でした。

当時キャンピングカー仕様に改造していましたが「もちろんOK!」の二つ返事で、息子と二人ですべての機材を車から降ろし、数時間をかけて空っぽの状態にしました。それから、スタッフの要望通りに棚と衣装掛けを設置しました。映画のロケ中は大変な活躍をしてくれて、約1か月間衣装運搬車としての務めを終え帰ってきました。実は、ちょっとだけ接触事故も起きましたが、小さな傷程度だったので記念に残してます(笑)

私もロケ中は、ドライバーやエキストラ、スタッフ補助、SNS広報部など色々と経験させて頂き、映画のスタッフから「これは佐賀モデルと言っていていいですよ!こんなにボランティアの皆さん達が協力して動いてくれたことはないよ!」と言って貰いました。

きっと映画に関わっていなければ出会うことはなかったであろう素晴らしい仲間達に。

感謝を込めて・・・そいぎまた(^)/""""





楽しかったお手つだい

北川そえ小学校  
ふい田 昴琉

ぼくのお父さんもお母さんそえいが「ら・かんぱねら」をしんする会のメンバーです。だから、いっしょにつれていってもらって「ら・かんぱねら」のさつえいを見ることなど、いろんなたいけんができて楽しかったです。その中でも、そうこの大そういは楽しかったです。とくに、ほうきではいたり、おもしろ物をもち上げるのが楽しかったです。2つ目はただいなのお手つだいも楽しかったです。お母さんがたしをやっていて、でんを切るお手つだいをしました。その日のごはんはカレーでぼくはにんじんを切りました。3つ目はぼくが金かたどうかが楽しかったです。大さかのけんいん会にお父さんとお母さんといっしょに行きました。ぼくはぼくちんがこをもち、おねがいをしているののお金があつて楽しかったです。

